

【1】 中学部教育の基本的な考え方とからだづくりをめざした教育課程の編成

「友だちと一緒に、自分らしさを表現しながら仕事や運動に力いっぱい取り組む子」これが中学部のめざす生徒の具体的な姿である。小学部で自立化を中心に、教師の庇護のもとに、遊びを通して培った力を、中学部では社会化と表現化を中心に、教師や友だちとの関わりの中で、大人として扱われだすがまだまだ遊びの許される生活の中で、自分を自分なりに力いっぱい表現させながら更に育てていこうとするものである。このことは、社会参加を目前にし、職業化を中心にした高等部の生活へとつなげ、逞しく生き抜いていける子を発展的に見通し、志向した姿でもある。

右図Iは、本校が開発した段階別教育内容をR子が3年間かけて習得してきた様子を示すグラフ

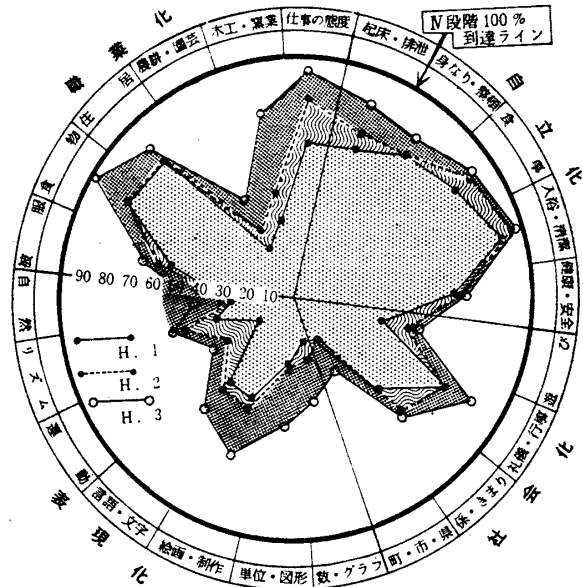


図1 段階別教育内容Ⅳ段階到達度の変容

である。我々は、学習したことが「生きて働く力」として定着し、このグラフが少しでも広がっていくことをめざしている。その時、「意欲、態度、身体機能、体力」等を含めたからだが大きく関係することに着目し、このからだづくりを通してめざす課題に迫っていこうとしているのが本研究である。

我々は、中学部の生徒の身体的・心理的特性を次の様にとらえ、学部の基本方針と関わらせながら次の様な教育課程を編成してからだづくりを実践した。

(1) 中学部の生徒の身体的・心理的特性とからだづくり

① 身体的特性

右図2は、M男(現在高1)の小4年～中3年迄の身長と胸囲の推移及び中・高等部女子の初潮期を示すグラフである。このグラフにもその特徴が見られるように

- a 多少のずれや遅れが見られるが、身体が飛躍的に育ち二次性徴が発現する。この形態的变化は多かれ少なかれ性的な事項と関わって、思春期を迎えた生徒たちを激しくゆさぶり、不安定要素をもたらす可能性がある。
- b 身体が飛躍的に育ち、大人顔負けの力もつき、身体を動かすことを要求する。この活動欲求が満たされないと、不快な心理状況を引き起こすだけでなく、筋肉の鈍化、大脳活動の低下・肥満による全身的鈍化を招く。

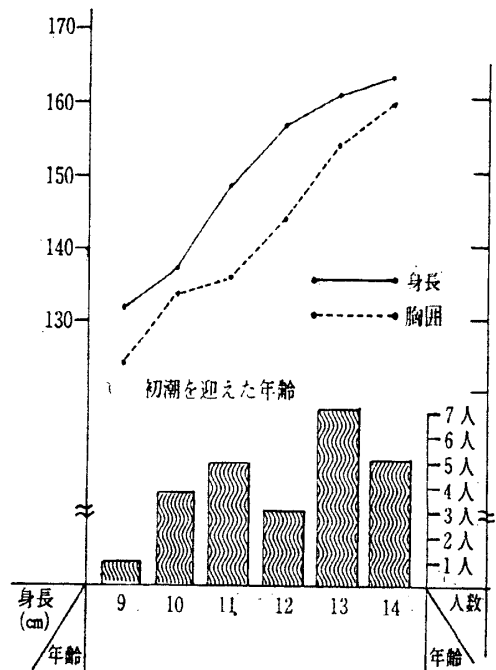


図2 身長・胸囲の推移と初潮期

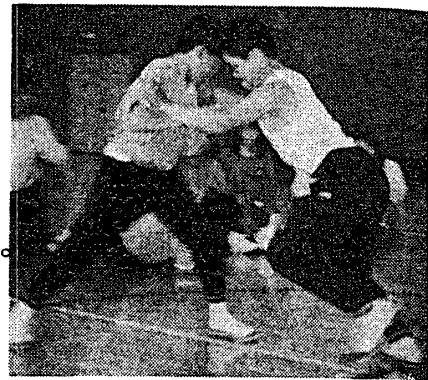
そして更に身体を動かすことを嫌うといった悪循環をもたらす。逆にこの運動要求をうまく生かせ

ば年齢効果も手伝って、身体をダイナミックに動かして、大人の道具を使って、大人顔負けの力を発揮したりして、かなり大がかりな仕事ができます。

② 心理的特性

歴年齢12～15歳、発達年齢4～8歳の生徒たちの心理的特性を総合的にとらえると、

- a 小学部から中学部への飛躍を感じたり、思春期の身体の変化成熟に伴って周囲からも要求され、なんとなく大人っぽくなる。
- b 取り組んだことが自分たちの生活にはね返ってきたり、自分たちの欲求が満たされたりする活動には意欲を持ち、積極的・持続的に取り組みます。

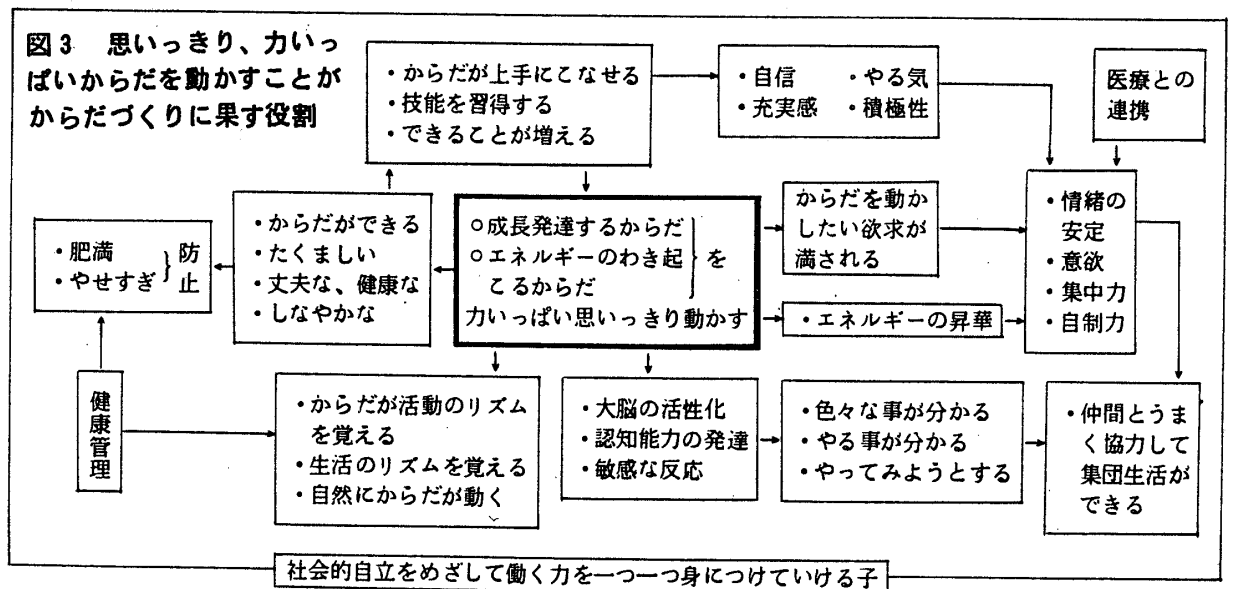


力のかぎりの押しずもう

- c 自我の芽生えや反抗心の上に、さらに自我が充実して、自制心や自己客観視の力が持てます。

見通しや段取りがつけられだす等、中学部では小学部よりも発達課題の幅は広がるが、先生や友達と一緒に自治的に活動することに喜びを感じ、お互いの発達の特徴をプラスの方向に生かせる。

以上、まだまだ伸びざかりの思春期の子どもを、発達の特徴を配慮した指導の手だてをとりながら、思いっきり、力いっぱい動かす場や機会を保障することによって、更に発達させ安定させていこうとするのが中学部のめざすからだづくりである。それは次の図3に示すように、単に身体だけではなく、心や態度を含めたからだづくりをめざしたものである。

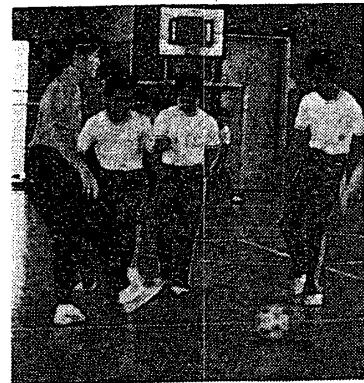


(2) からだづくりに視点を当てた教育課程の編成

中学部では、そのめざす課題を実現するために、身体的・心理的特性をふまえて、また、意欲の発生、具体操作、生活活用、集団活動の中での個別化等の指導の原則から考えて、生活単元学習、作業学習を中核にした教育課程を組んでいる。次頁表1は、本学部が取り組んでいるからだづくりの3つの場面であり、図4はそれを加味した教育課程の模式図、更に表2はからだづくりには欠かせない生活リズムの確立、見通しのある目的的生活の流れを配慮して組み立てた週時表である。

表1 からだづくりの3場面

運動	からだづくり養訓 (屋内・サーキット、屋外サーキット、リズム表現)
	・鍛えるからだづくり
	体育 (サッカー、水泳、陸上、卓球……等)
	・鍛えたからだを生かし使い、更に鍛えて育てるからだづくり
遊び的労働を重視した生活単元学習 (野外炊飯、臨海学校……等)	・鍛えたからだを生かし使い、更に育てるからだづくり
	健康管理 (日常生活の指導、朝の活動)
	・健康なからだをつくる、保つ



「運動」からサッカーをする子々

日常生活活動	からだづくり養訓	作業学習	生活単元学習	教科学習	日常生活の指導特	遊び・余暇の利用
リズム表現①	農園	特道美数理社国 活徳術学科会語	合同 合同	委員会 クラブ	朝の会⑤ 話す、読む、 合奏・歌う	遊 び ・ 余 暇 の 利 用
サーキット②	②	①①	農調木職 耕理工業家 被陶庭 服芸	体育② 音楽①	① ①	
運動機能訓練 (抽出養訓)	軽作業②			国数 (個別学習)②		



「生活単元学習」から

○内は週時間数

日常生活の指導に於る健康管理、指導

図4 教育課程模式図

① 週時表、指導内容の工夫 (表2)

- a 1校時—運動、2校時—朝の活動、3・4校時—生活単元学習、5・6校時—作業学習を基本にした帯を週時表に設け、生活リズムの確立を図る。
- b 遊び的労働を重視した生活単元学習を中核に、他の学習もできるだけ関連づけ、一定期間、生徒の思いが一つの方向に向かっていける工夫をする。
- c 作業学習は、年間を通して、同じ題材にくり返し取り組む。
- d 個別学習を週2時間設け、文字、ことば、数等の表現化に関わる課題を個別に指導する。

※昨年度迄は、1校時と2校時の内容が入れ替っていた。校内の諸事情で、今年度は1校時から運動に取り組んだ。身体が目覚めという点で心配したが、遠距離の通学途上にその場は保障されており、結果的には、汗をかいて運動をした後、落ち着いて学習に取り組む流れは有効であった。

	月	火	水	木	金	土
9.00	衣服の着脱 持ち物整理 係の仕事 朝自習					
9.45	サーキ ット	体 育	サーキ ット	サーキ ット	リズム 表現	体 育
10.25	身体表現 リズム運動 会話練習 合奏練習 等					
10.45	生活単元学習					
12.10	給食 後片付け 洗面 音楽					
1.10	着替え 下校					
1.30	作 業 学 習 (農 園)	ク ラ ブ 委 員 会	国 語 着 替 え 下 校	作 業 学 習 (軽 作 業)	数 学	
2.10	着替え 持ち物整理 帰りの会 挨拶					
3.00						